



# The Star in the West

## 東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

- 国際会長主題 “On the Move!!” 「さあ 動こう!!」
- アジア会長主題 “With Pride and Pleasure” 「誇りと喜びを持って」
- 東日本区理事主題 「みんなで力を合わせて、1・2・3」
- あずさ部部長主題 「入会時の“ときめき”と多くの経験をワイズのために！」
- 東京西クラブ会長主題 「いつも自然体で！ 楽しい例会参加を」

### 2019年8月号

NO 515

「さて、あなたは、この3人の中でだれが、追はぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」  
 律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこでイエスは言われた。「すぐあなたも同じようにしなさい。」  
 ルカによる福音書10章26節

### 星に願いを

東京西クラブのブリテンの題字は、1986年6月に発行した第1号以来、『STAR in the WEST』です。キリスト降誕物語をイメージしています。

イエスの誕生を知った東方の賢人(ワイズメン)たちが、その祝いのために、星に導かれて旅してきました。「ブリテンは、クラブを導く、輝く星でありたい。ある時は、メンバーに進むべき道を示し、ある時は、慰め、励ますものでありたい。」そんな思いがあつて、決めました。仙台青葉城クラブの金原譲さんが、「星在輝西」と揮毫してくださいました。

人は、古来、星に想いを託してきました。今年見た七夕の短冊に「とりあえず、運勢を3倍ほどに増やしたい」とあり、その遠慮ぶかさに、思わず笑ってしまいました。そして数年前、年末恒例3億円ジャンボ宝くじの時に、新宿の

### 会員増強委員長 吉田 明弘

の皆中(みなあたる)稲荷神社にかかっていた「100万円、当たるように」と書かれた絵馬を思い出しました。これもささやかな、現実的な願いかもしれません。

私たちのクラブは、身の程にあった活動をし、チームワークも、かなり良いと言えます。これは、2011年以後、新入会員がないのですから、当然とも言えます。しかし何かやろうとするとメンバー不足は否めません。ぎりぎりのところで回転しているのが現実です。本当でこれでいいのか。

「とりあえず」ではなく、「何がなんでも」今年度中に「メンバーを3人増やしたい」が、私の悲願であり、クラブメンバーの皆さんも同じように願っていると思います。ぜひ実現させましょう。

3人増えたら、これまでと違った景色や展望が見えてくるはずですよ。



国立天文台歴史館の65cm屈折赤道儀

### WHO 9月からの予定

WHOは、8月も夏休みです。

9月28日(土)

三鷹の国立天文台と野川清流と緑地、水車農家を訪ねます

10月25日(土)

国立キウイ農家と矢川湿原

11月23日(土)

別荘地・荻窪の史跡建造物

12月21日(土)

大つごもり一葉の浅草、本郷

### クラブ役員

- 会長 篠原 文恵
- 副会長 大野 貞次
- 書記 神谷 幸男
- 会計 高嶋美知子
- 担当主事 木川 拓

7月の記録				ニコニコ	6,100円
在籍者数	15人	メネット	0人	クラブファンド	0円
(内功労会員)	2人				
出席者数	10人	コメント	0人	ファンド残高	158,447円
メーキャップ	2人	ビジター	4人	ホテ校ファンド	9,450円
出席率	86%	ゲスト	3人	奨学金残高	10,429円
前月修正	—	出席者合計	17人	WHO参加者	—

## 古典ピアノの音色と杜の食事 8月納涼例会案内

### 今月の強調テーマ：CS

今年の納涼例会は、やや趣を変えました。JR 信濃町駅から至近距離の3つの会場で、3つのプログラムをもちます。どこからでも参加できます。赤羽美栄子あずさ部長の公式訪問もあります。夏の宵を楽しく一緒にできることを願っています。

日時 2019年8月22日(木) 15:00~19:00  
(日・時ともに例月とは違います)

内容 ①古典ピアノの解説とその生演奏  
15:10~15:50(受付 15:00)  
民音音楽博物館2F 古典ピアノ室  
②会務打ち合わせまたは休養  
16:00~16:40 近くのCAFÉ など  
③森のレストランで食事会  
17:00~19:00  
外苑・うまや・信濃町  
会費 5,500円(食事代、ワンドリンク付き)  
申し込み:8月19日(土)まで。090-5761-7455  
czt05343@nifty.com 吉田

### HAPPY BIRTHDAY

4日	篠原 文恵	13日	神谷 幸男
15日	本川 章	17日	山田利三郎
18日	河原崎九州男		

第1部 古典ピアノを聴く 受付 村野絢子  
進行 吉田明弘  
解説:博物館学芸員 野沢 晃さん

### 第2部 会務打合せ・休養

第3部 夕食会 司会 鳥越 成代  
開会点鐘 篠原 会長  
ワイズソング(いざ立て) 一同  
聖書朗読・感謝 村野 絢子  
開会あいさつとゲスト紹介 篠原 会長  
あずさ部長挨拶 部長・赤羽美恵子さん  
(松本クラブ)

乾杯  
会食・歓談  
ハッピーバースデー  
報告  
ニコニコ  
閉会点鐘 篠原 会長

### アクセス

**民音音楽博物館**: JR 中央線・信濃町駅の改札前の外苑東通りを渡り、右に歩き、慶応病院並びの建物。駅から5分。03-5362-3555

**外苑うまや信濃町**: 同駅改札から左に出て歩道橋を渡った正面。駅から4分。03-5771-6331

### — 7月第2例会(事務会) —

日時: 7月25日(木)

19:10~21:00

会場: ウェルファーム杉並

出席者: 神谷、篠原、鳥越、本川、吉田

<報告事項>

①7月のデータ: 報告のあった諸データを確認した。

②山田利三郎さんを功労会員とすることを区に届け出た。

<協議事項>

①2018-2019 年度会計決算報告を承認した。

②小山多喜子さんには有志で訪問する。

<協議事項>

①2019-2020 年度予算案: 修正案を8月例会に再提出する。

②9月例会の卓話候補が挙がり、鳥越さんが交渉する。

③10月例会の卓話者は未定。

④11月例会の卓話者: 米長晴信さん(甲府21クラブ。元フジテレビ報道局員・アフガンの戦場記者、元参議院議員)

⑤9月号ブリテン編集会議: 時間切れとなり、改めて編集予定と原稿依頼表を全員にメールにて送付することとした。

⑥ブリテン郵送先について本川悦子さんの資料で確認する。

⑦区から呼びかけのあった SNS のデータ呼びかけについて協議をした。

⑧2019-2020 年会計予算は、前年度決算を踏まえて協議する。  
(書記・神谷幸男)

面白い

## Change! 2022

EMCニュース

ワイズドットコムで配信されます

### 古典ピアノの演奏と解説

国内外の音楽に関する図書、楽器、自動演奏機、楽譜などが保存、展示されています。2階の楽器展示室では、各種の楽器がユニークな分類で展示され、企画展「子どものための世界民族楽器展」も開催中です。

今回は、古典ピアノ室で、1580年~1600年に制作されたチェンバロ、モーツァルトが使用したと言われるピアノ、ベートーベン、ショパン、シューベルトらが評価したピアノ、などの解説と、名曲のさわりの演奏を聴きます。早めに来館されれば、さまざまな展示を楽しめます。入館無料。

\*古典ピアノ室は低温となっていますので、羽織るものがあつた方がよいでしょう。



7月例会の卓話は、『睡眠のはなし』



和のおもてなしを体験する香港YMCAの高校生

## 遅寝、早起きのススメ — 7月例会報告 —

7月例会の卓話をお願いした宮崎加奈子さんは「臨床心理士」、「精神保健福祉士」そして、大震災後必要性が増して設けられた国家資格の「公認心理師」の資格をお持ちです。2年前から「みやざきカウンセリングオフィス」を開業し、がんに関わる方のカウンセリング、患者・スタッフを対象に講演活動もされる他、大学、企業でも非常勤務されています。

今回は多くの方が悩む「睡眠」について心理学の立場からのお話を伺いました。

睡眠の問題とは、①寝付けない、②何度も目が覚める、③満足感が無い、④朝早く目が覚める、の症状です。これに対して睡眠剤等の薬物療法と非薬物療法がなされ、非薬物療法には、認知行動、精神療法、光療法、運動療法等があります。厚生労働省の『睡眠障害対処 12 の指針』がインターネットで見ることができます。

加齢による変化はあるが、基礎代謝の低下、運動量の低下が原因なので、入眠までの時間、眠りの浅さ、中断があっても睡眠時間にこだわらないことです。

心がけることは、

- ①自分に合った睡眠時間（レム睡眠、ノンレム睡眠）
- ②眠くなったら就床
- ③昼寝は15時まで、20～30分
- ④刺激物、就床前のカフェイン摂取は避ける（緑茶、水出し玄

米茶も15時前に)

⑤明るすぎない照明

⑥睡眠薬代わりの寝酒は不眠のもと。2時間前までに

疾患から生じる不眠症、閉塞性睡眠、無呼吸症、激しいいびき、呼吸停止、レストレス症候群、大きな寝言、身体を動かし続ける、ムズムズ感などは、専門家に相談する。

睡眠の薬については、さまざまな薬の特性を話され、出席された薬剤師である宮崎さんのお母様からのコメントもありました。

まとめとしては、遅寝、早起き、カフェインは15時前まで。質問が多く、睡眠についての関心の高さを感じました。（村野絢子）

出席者：<メンバー>石井、大野、河原崎、神崎、木川、篠原、鳥越、本川、村野、吉田、<ビジター>藤江貴美子（東京たんぼぼ）、大輪匡史・麻生由美子（東京武蔵野多摩）、小口多津子（東京八王子）、<ゲスト>宮崎加奈子（卓話者）、宮崎信子、扉引聡子、<メイキャップ>神谷（部評議会）、高嶋（部評議会）

## 来日した香港Yの若者の おもてなし体験を応援

「日本のおもてなし」を学びたいと香港YMCAの高校生男女9人とスタッフを東京YMCAが受け入れました。

7月24日に、荻窪の大田黒公園茶室で、深尾香子さん（東京多摩みなみ・茶道教授）を中心に、



シャカシャカ・レディーは着付けも出来る・

クラブのシャカシャカ・レディーと茶坊主が手伝い、茶道の「おもてなし」を体験してもらいました。

お茶を飲むだけでなく、浴衣着用、行儀作法、下駄を履いて日本庭園を散策、そしてお茶席と、日本の文化を体験しました。

お昼は、「京都美濃吉」のお弁当を畳に座って食べました。お茶席では、時々足を崩すもののきちんと正座して、お濃茶、お薄と2種類のお茶をたしなみしました。

27日に帰国した彼らから、「正座はきつかったけど、素晴らしいプログラムだった。日本の文化に触れられてよかった。日本の人たちは優しく、きちんとしている」との感想が、YMCA国際部の松本数実主任主事を通して届きました。

クラブ参加者は、石井、大野、神谷M、篠原、本川、吉田。

大輪匡史さん（東京武蔵野多摩クラブ会長）の応援もありました。（本川悦子）

## 杜の都で国際交流 アジア太平洋地域大会

アジア太平洋地域大会が7月19～21日に仙台市国際センターで開催された。国内外から約820人のワイズメンが参集し、実のある大会だった。IBC台北セントラルクラブから林呈烈（Mark Lin）さんと李勝雄（Stephen Lee）さんが参加された。



今年度は、国際議会が仙台市で開かれたため、大会でジェニファー・ジョーンズ国際会長（写真中央）の就任式が行われました

大会では、2つのセッションが印象に残った。1つは2つの公開講演会。いずれも防災・危機管理に関する講演で、忘れかかっている特に精神的ダメージを思い起こすに適切な講演であった。また一般市民も対象とした公開講演も地域に密着した優れた企画であった。

2つ目は本大会直前に行われたアジア太平洋地域ユースコンボケーションの報告である。メリハリのついた判り易い報告で、好感が持てた。参加人数は30人弱で多数とは言えないが、これらの若者が精神的に貧困に陥っている現代を、品格のある世界にリードして行くであろうことが期待され頼もしく思えた。

晩餐会は2回行われたが、席順を少なくとも1回くらいは他国の方々を含め普段あまり顔を合わせる事の少ない方々との組み合わせも考えてもよいのではないかと。顔なじみのある人の方が気が楽ではあるのは確かだが。

クラブからの参加は、石井、大野、神谷、神谷 M、神崎、篠原、

本川、村野、高嶋、吉田。

（神谷幸男）



IBC台北セントラルクラブの李勝雄さん（右から4人目）、林呈烈さん（同8人目）とクラブメンバー。李さんはBF代表、林さんは来年3月のクラブ創立40周年祝会の委員です

## たっぷり話し、聴けた 甲府開府500年評議会

あずさ部第1回評議会が、「甲府開府500年評議会」として、7月20日に、甲府・岡島ローヤル会館で行われました。

今回は、新年度最初の評議会とあって、広瀬健直前部長（甲府21）をはじめ直前役員は、余裕の表情、赤羽美栄子部長をはじめ新役員が、新クラブ会長を含めて、やや緊張気味だったのが、いつものことながら対照的でした。



あずさ部会でクラブ活動方針を話す篠原会長

篠原文恵さんが会長、本川悦子さんがユース事業主査としてデビュー。本川さんは、クラブとして2011-12年度の大野貞次さん以来の主査です。

5月の善光寺評議会でも、2018-19年度の報告が済んでいたため、議案は、前年度会計決算案の承認、今年度会計予算案の承認の2件でした。今年度予算については、前回の評議会でも説明され、その一部修正の提案でしたのでいずれも短時間で承認されました。

また追加議案のクラブの輪番制での部長選出について、クラブ

## YMCA Today

■国際ホテル専門学校では学生たちが夏休み中、未来のホテルエを目指し高校生を対象に学校説明会や体験入学を実施、2年生がボランティアとしてお手伝いしています。彼らの想いや実体験をきっかけに繋がることが、80年を超えるホテル学校の歴史には欠かせない要素だったりします。この経験を通じて、在校生の成長の一助になればと切に願っています。

■7月22日～27日、香港YMCAから高校生9人と引率者2人が来日し、TYIS（インターナショナルスクール）と東陽町語学教育センターが受入を担い、交流プログラムが行われました。にはんご学院や国際ホテル専門学校での模擬授業、おもてなし講座（作法・お茶・浴衣体験他）、江戸城ウォーキングなど、日本文化を体験し、ご協力いただいたワイズメンズクラブの方々を始め、多くの交流がもたれました。

■7月22日～25日、4年目となった「北京・東京YMCAパートナーシップ国際キャンプ」が山中湖センターで開催されました。北京の小学生81人、ボランティア、スタッフなど総勢91人が参加。カヌー体験、野外炊飯、キャンプファイヤー他、様々なプログラムを体験。にはんご学院と経済流通大学の中国籍留学生、社会体育・保育専門学校生がボランティアをつとめ、日中両国の架け橋として活躍されました。

（担当主事 木川 拓）

▽▽▽ ▽▽▽ ▽▽▽

事情で受けられない場合の猶予期間を細則に追加することが決まりました。

評議会は実質1時間30分でしたが、各主査、各クラブ会長の活動方針の説明が、時間に制約されずに話し、聴けて、充実した評議会だったと感じました。

（吉田明弘）

## ☆☆☆ インタビュー ☆71☆ 松田俊彦さんに聞く

東京クラブ

松田俊彦さんは、かつて「松田聖子のマツダ、田原俊彦のトシヒコ」と自己紹介されたことがありました。(吉田明弘)



—松田さんとは、同年齢。私は1966年に入会して、同年代の松田さんや鈴木健次さん(当時東京江東)が、ベテランを前に堂々と話すのを眩しく見ていました。

YMCAは、高校の時からですか。

「ええ、福島県相馬市の高校生の時、教会に高校生青年会(KKS)があって仙台YMCAの金城平真主事の指導で、講演会、レコードコンサート、工作作業、フォークダンス、キャロリング、仙台作並キャンプ場でのキャンプなどYMCA活動をやっていました。これは大学まで続けました。卒業後、総合商社に入社、東京クラブに入会しました。1965年頃、福岡に転勤しましたが、福岡YMCAは名ばかりで活動は何もありませんでした。仕方なく福岡クラブに入会しました。一方、福岡YMCA理事長の平岩馨邦さん(福岡女学院短期大学学長)と出会いました。私は平岩さんの父上、平岩恒保牧師が創立した阿佐ヶ谷教会の会員であったこともあって意気投合しました。中村次郎さん(現福岡中央)、片岡武一さん(後に東京)らと共に福岡YMCA会員活動を展開しました。1971年に東京クラブに転会しました」

—松田さんがIBC/YEEP主任だった時、急な会社の転勤で、任期途中で私が後継を務めることになりました。

「そうでした。スウェーデンか

らの女子高校生を1年間都内のクラブで預かってもらいましたね」  
—松田さんは、新クラブづくりの名人と言われます。どういうキッカケをつかむのですか。

「TIFYsの場合は、鈴木健次さんと何とか新クラブをつくろうと話し合っていました。鈴木さんはYMCA・OBのクラブを目指し、人は集まったのですが、ワイズという壁を越えられませんでした。私はバイリンガルのクラブを提案しました。たまたま東京クラブの75周年があり、その記念事業ということになり、西村隆夫さんたちが中心になって、1986年に誕生しました。

1987年、クラブのない松本転勤を命じられた時、甲府クラブに挨拶に行きました。『松本に新クラブ』は甲府クラブの夢であり、以前設立寸前まで進めたことがあったからです。東京クラブのメンバーの父上が地元で知られた幼児教育者だったのです。この方の紹介で中心会員が集まりました。私もチャーターメンバーとなりました。今、それを知る人は少ないでしょうね。

1993年の会津クラブの場合は、仙台で金原譲さん(仙台青葉城)と飲んだ時に、私が『福島にYMCAをつくりたい。その前にクラブを』と言ったら、金原さんが、『会津若松に面白い牧師がいる』と、高橋力さんに長電話をして、3人が『会津にYMCAを、まずワイズを!』で一致しました。

1993年の新潟クラブは、私が北東部長として次期役員研修会に出席した時、九州部長の吉本貞一郎さん(熊本)が、山口一徳さん(熊本ジェーンズ)が新潟に転勤になったと教えてくれたのです。星野達雄主事の協力や菅谷淳主事の主事論文を手掛かりに…。毎月の準備会に月2回の新潟参りを続けました。山口さんの転勤で挫折しかかったのですが、地元の

方の意欲と、持田二郎さんのバックアップで、実を結びました」  
—新クラブづくりで心がけていることはありますか。

「出会い・熱意・準備を大切にしています」

—商社で木材を扱われました。

「そうです。主に住宅資材を扱っていました。ここでは、会社の『文化部所属の聖書を読む会』を発足させました。東京YMCA田中義宣主事(現鎌倉)指導によって1971年の会社“崩壊”まで続けました。

—趣味の民謡は今もやられていますか。

「最近は、風呂で『新相馬節』を時々うなっている程度ですね」  
—東日本区理事を務められた2003年、東日本大震災で津波被害が起きました。緊急救援の初動は早かったですね。

「すぐに東日本区支援対策本部を設け、いち早く緊急支援物資の受付発送拠点を東京YMCA妙高高原ロッジに決めて動いたことは良かったですね。仙台YMCAに早く物資などを届けられました」

—言われませんでした。相馬の実家が被災されたそうですね。

「鴨居まで水につかり、庭には車3台が流れ込んでいました。母方の実家は全滅し、今も遺体は見つかっていません」

—そうでしたか。1992年、エルマークロウ賞を受賞されましたね。このことは、『日本ワイズメン運動70年史』(1997年)に記載漏れたので、どこかに書きたいと思っていました。

「はい。名誉なことです」

—ワイズに入会して良かったことは。

「良い友達に出会えたことです」  
—ワイズに対する夢は。

「法人化してライオンズやロータリーに並ぶ国際奉仕クラブにしたいですね」

—有難うございました。

## 旅で出会った人 ⑪

村野絢子

## 北欧3国4人旅

毎月、金曜日の夜、N響を聴き、その後食事を共にすること十数年続いた教師仲間4人、以前から計画していた北欧旅行を1997年の夏休み実行に移した。倫子さんがスウェーデンにモニカ・ベックマンのジャズダンスを学びに毎夏参加していて、当時私の4女・百合が、スウェーデンの友人宅にホームステイしていたので、この時と出掛けた。倫子さんの義妹の美代子さんがストックホルムで旅行ガイドをしていて旅程を組んでくださった。

敏子さん、満利子さん、私の3人は、成田からパリ経由でストックホルム着。船でフィンランドのヘルシンキに向かった。そこでは「市民の意見で出来た岩の教会」「シベリウスの生家」が印象に残る。戻った港で倫子さんと合流し、4人で、ストックホルム市内を見学し、古い町ウプサラを楽しんだ。

次に、ノルウェーのオスロに飛び、電車で北に向かい予約したホテルはダブルブッキングで違うホテルのスイートルームに案内された。それまでいつもじゃんけんで決めた相手と2部屋に泊まったが、

今回は一部屋、じゃんけんでメインベッドかエキストラベッドかを決めた。温暖化で氷河が後退している様を見、落ちる滝をバックに写真を撮り、アクシデントもいいねとなった。

ベルゲンの素敵な街を見てオスロに戻る。今度は飛行機が遅れるアクシデント、おまけに空港のトイレに敏子さんが閉じ込められ、スタッフを呼んで解決。同じ飛行機に東洋英和の院長がいらしてビックリした。

ストックホルムに戻り、電車で百合のいるヨンショピンに向かう。乗り換えのネフェウで16年前にホームステイしたブリッタに電話すると繋がりと、百合の住所を聞かれた。翌朝、ガラス工場の見学に行く途中ルイネとブリッタのコテージに寄り、16年ぶりの再会を果たした。

敏子さんはボーイスカウトのデンマザーで、満利子さんはフランスでステンドグラスを学んだ人、倫子さんはスウェーデンに詳しく、と私の旅慣れた4人、毎朝約束の5分前に両方のドアが開いたのは見事だった。「ぶすかむ」がバス・カムのことだったり、日本人の男性に「君たち、だんなにかまってもらえなくて気の毒だな」と言われたり、笑いの絶えない旅でした。

## 真似から始まった私のボランティア

篠原文恵

きっかけは中学1年の秋、上級生が何処かの施設にプレゼントを持って行ったことを知り、真似をして友人たちを誘ったのが始まりでした。親から貰ったお小遣いではなく汗を流そうと思い、冬休みに落花生農家でピーナツの皮むきをして、お正月にお菓子類を児童養護施設に持って行きました。結果、表彰されたことは面映ゆかったけれど、充実感はありません。

長じて、月にアポロが到達した年、夫の仕事でアメリカに短期滞在しました。地元の公立高校で英会話の夜間スクールがあり3ヶ月通いましたが、講師は80歳に近いおばあちゃん先生で、いつも真っ赤なドレスで明るく指導してくれ、ヨーロッパ・南米からの移住者と共に勉強し、卒業パーティーでは皆で民族衣装を着て盛り

上がりました。

その後、私が合った米国人はごく当然のように「貴女は日本ではどんなボランティアをしていたの?」と聞かれ、アメリカでは大統領夫人までが、施設でスープを配ったり奉仕作業をするのが当たり前と聞き驚きました。

60歳近くになり時間もでき、地域の子育てサポートのサークルで、赤ちゃんのお世話や障がい児・病児保育などの現実を見たり、外国人の多い土地柄なので片言のお母さんたちとのやり取りなどで有意義な年月を過ごしました。以前お世話した子どもさんの運動会に招かれたり、180センチを超える青年に挨拶されると、自分の年を意識させられます。

最近は体力的に無理のない音訳図書のデジタル編集作業に変わり、少し忙しくなりましたが、細切れの時間を使ってできるボランティアに満足しています。

## 編集後記

9月号は、神谷幸男さんに3本、村野絢子さんに2本、原稿をお願いしました。

村野さんから届いた『旅で出会った人』を読んで、びっくり。22年前のことが、あたかも昨日のことのように書かれていました。

「そうなんだよな。昨日のことは忘れても、昔のことは忘れないんだよな」

数日後、例会報告の原稿が来ました。卓話の『睡眠のはなし』がきちっと書かれていました。分かりやすかったけど、かなりの早口でスライドの話をどうやってメモしたのだろう。念のために講師の宮崎加奈子さんに確認をお願いしました。

「すごいですね」。

数多い薬剤の長所と短所も書き分けられていました。しかし紙面の都合で、これはカット。

最近のことも、昔のことも覚えていられる人がいるのです。(AY)